PAT.P

DENSAN by JEFCOM　通線ジェットブローセット BW-500　取扱説明書

このたびは、通線ジェットブローセット をお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。
ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みになり指示に従って正しく使用してください。
お読みになった取扱説明書はお使いになる方がいつでも見れる所に保管してください。

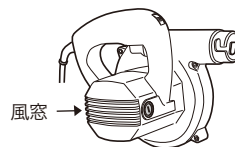
安全上のご注意

⚠警告

- 作業時は保護メガネ、マスクを着用してください。異物が入る恐れがあります。また、長い髪は帽子等で覆ってください。風に巻き込まれる恐れがあります。
- 故障、異常時は直ちに作業を中止してください。絶対にユーザー様ご自身で修理や分解・改造をしないでください。またブロワー本体を誤って落としたり、ぶつけた時は損傷、変形がないことを確認してから、試運転をしてください。
- 輸送による振動でゆるみ、ひび割れ、破損が起こる場合があります。必ず異常がないことを確認、点検、試運転を行ってください。
- お使いになる前には、必ず電源コードやプラグを点検してください。無理に引っ張ったり、挟んだりせず、傷つけたりしないでください。コードやプラグが傷んだまま使用されますと火災、感電、やけどの原因になります。
- ブロワー本体の吸い込み口から粉じんや鋭利な物など異物を吸い込ませないでください。ケガや破損の原因となります。
- 作業中、ノズルの先端を人や、精密機械などの風窓に向けないでください。
- 運転させたまま、床などに放置しないでください。
- ブロワー本体は確実に保持・固定してお使いください。　逆さに向けたり、本体をバイス等で固定、水平でない場所や不安定な場所への設置や取付けは、不意の移動や落下の原因になります。
- 足場の不安定な場所や無理な姿勢で作業しないでください。
- ブロワー本体・プラグに水がかかる場所では使用しないでください。感電の恐れがあります。
- ガソリン、ガス、シンナー、塗料、接着剤、など引火性、爆発の恐れのある物の近くでは使用しないでください。火災や爆発、ケガの原因になります。
- ブロワー本体はAC100V電源で使用してください。また、発電機より電源をとらないでください。AC100V以外の電源で使用すると、モーターの回転が異常になり、機体が破損する恐れがあります。
- ブロワーを移動させる時は、スイッチをOFFにして、電源プラグを抜いてください。不意に回転して思わぬケガの原因となります。
- 使用しない時や、点検、パーツの脱着、お手入れの際は、スイッチをOFFにして、電源プラグを抜いてください。不意に回転して思わぬケガの原因となります。
- 使用中に身体をアース(接地)されているもの(パイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫、洗濯機等)に触れないでください。感電の恐れがあります。
- 漏電遮断機が設置されている電源を使用してください。感電の恐れがあります。

⚠注意

- 通線作業をするときは、通線経路出口に人や壊れやすいモノを近接させないでください。風圧で管内の金属片や液体、ホコリや異物等が吹き出しケガや破損、汚損の恐れがあります。
- 指定以外のパーツは使わないでください。誤作動や故障、破損、思わぬケガの原因になります。
- ブロワー本体の風窓(ルーバー)はふさがないでください。モーターが過熱し焼損や故障の原因となります。(右図参照)
- 常温(0℃～40℃)で使用してください。モーターが過熱し焼損や故障の原因となります。
- 連続運転は定格使用時間(30分)以内にしてください。モーターが過熱し焼損や故障の原因となりなす。
- 電源プラグを抜くときは、プラグ部分をもって抜いてください。コードをもって抜くと断線の恐れがあります。
- カーボンブラシは時々点検し、長さが5mmまで摩耗していれば交換してください。短くなったまま使用するとモーターの故障の原因になります。
- シンナーなどの溶剤雰囲気中に長期保存しないでください。界面破壊を誘発し破損の原因となります。
- お手入れ時はシンナーなどの溶剤を使用しないでください。界面破壊を誘発し破損の原因となります。

風窓 →

⚠使用上の注意

- 配管内の水や異物等がある場合は、取り除いてから作業してください。水や異物があるとシャトルライナー(又はボールライナー)が止まります。
- 配管に変形や、潰れ、破れ、気密不良、段差等がある場合は、当製品で作業しないでください。シャトルライナー(又はボールライナー)が止まり通線できません。
- 配管の途中にボックス等がある場合は、ボックスまでの通線となります。
- 電線管適応表の内容は、実験値であり、作業される環境に於いての保証値ではありません。予めご了承ください。
- 一度通線作業したシャトルライナーや、電線管の途中から引き戻したシャトルライナーは再利用しないでください。シャトルライナーが変形して管内で止まったり、破損して管内に残留する恐れがあります。

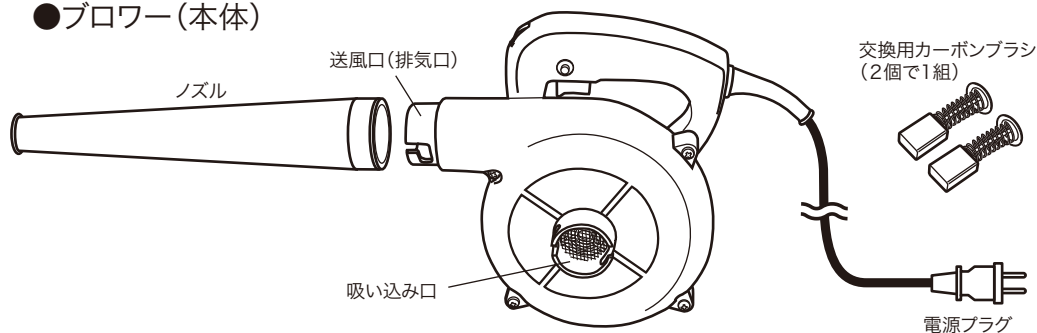
特長

- **電線管に別売リードロープ(電線索引用)を一気に通線できるエア通線システム**(注)
- **付属のリードラインは呼線やリードロープの引き込みに最適**
- **60m通線OK**(当社テストによる。60m 4曲りまでOK)
- **電線管の呼び径16～75(内径16～73mm)に対応**
- **ブロワー本体は500Wと省電力**
- **軽くてコンパクト(ブロワー本体 質量1.7kg)**
- **リードライン(ロープ索引用の糸)を瞬時に通す俊足ボールライナー**
- **リードロープ(電線索引用)も通せる強力シャトルライナー**

(注)
リードロープを通線する場合は、シャトルライナーのBWS-40、BWS-50、BWS-60、BWS-70をご使用ください。リードラインは全種類のライナーで通線可能です。

ML1BBG

セット内容

●ブロワー（本体）

□ ブロワー仕様

定格入力	AC100V(50/60Hz)
消費電力	500W
電流	5.3A
回転数	3500～13000min^{-1}
最大風量	2.3m^3/min(m^3/分)
風速	0～76m/s(76m/秒)
定格時間	30分
ブロワー質量	約1.7kg
ケーブル長	約2m
二重絶縁構造	回

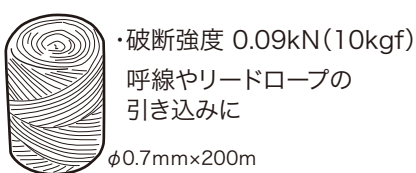
●ダクトホース（2m）

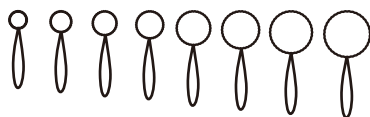
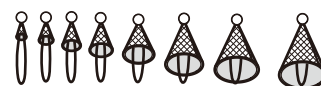
●ケース

●ホースバンド×2個

●リードライン×5個

・破断強度 0.09kN（10kgf）
呼線やリードロープの
引き込みに

φ0.7mm×200m

●先端ゴムアタッチメント
（詳細は下記参照）

●ボールライナー
（詳細は下記参照）

●シャトルライナー
（詳細は下記参照）

電線管適応表

※電線管の内径は計算値です。実際の寸法と異なる場合があります。

厚鋼	薄鋼	ねじなし	VE管	PF,CD管	適応管内径	先端ゴムアタッチメント ロングノズル	ショートノズル	ショートノズル（大）	アングルノズル①	アングルノズル②	アングルノズル③
G16	C19	E19	16	16	φ15.9～18	●	●		●	●	●
G22	C25	E25	22	22	φ21.9～23	●	●		●	●	●
G28	C31	E31	28	28	φ28　～29	●	●		●	●	●
G36	C29	E29	36	36	φ34.9～36.9		●	●	●	●	●
G42	C51	E51	42	42	φ40　～48			●			
G54				54	φ50　～54			●			
	C63	E63			φ59.5～60.3			●			
G70	C75	E75	70	70	φ69.6～72.6			●			

ダクトホースが入りづらい場合などにご使用ください。（アングルノズル①～③）

別売品のご案内

●ボールライナー（品番・入数は下記参照）

●シャトルライナー（品番・入数は下記参照）

●リードライン（品番：LS-L）
サイズ：φ0.7mm×200m　破断強度：0.09kN（10kgf）

●リードロープ（品番：LS-R4）
サイズ：φ4mm×200m
破断強度：2.55kN（260kgf）

●リードロープ（品番：LS-R5）
サイズ：φ5mm×200m
破断強度：3.82kN（390kgf）

●ロープリール（品番：DR-720）
サイズ：w480×d230×h510mm

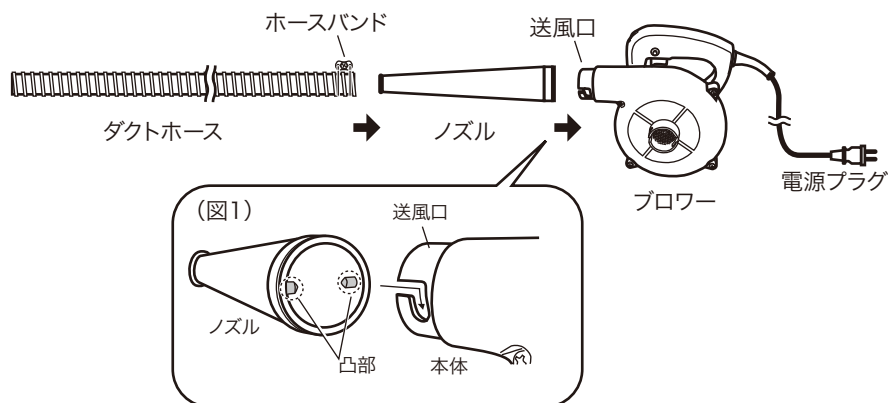
品番・入数

厚鋼	薄鋼	ねじなし	VE管	PF,CD管	適応管内径	ボールライナー BWB-18（10個）	BWB-25（10個）	BWB-30（10個）	BWB-35（10個）	BWB-40（5個）	BWB-50（5個）	BWB-60（5個）	BWB-70（5個）	シャトルライナー BWS-16（5個）	BWS-22（5個）	BWS-28（5個）	BWS-36（5個）	BWS-40（5個）	BWS-50（5個）	BWS-60（5個）	BWS-70（5個）
G16	C19	E19	16	16	φ15.9～18	●								●							
G22	C25	E25	22	22	φ21.9～23		●								●						
G28	C31	E31	28	28	φ28　～29			●								●					
G36	C29	E29	36	36	φ34.9～36.9				●								●				
G42	C51	E51	42	42	φ40　～48					●								●			
G54				54	φ50　～54						●								●		
	C63	E63			φ59.5～60.3							●								●	
G70	C75	E75	70	70	φ69.6～72.6								●								●
リードライン・リードロープの対応				リードライン（品番：LS-L）		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
				リードロープ（品番：LS-R4）														●	●	●	●
				リードロープ（品番：LS-R5）														●	●	●	●

組立方法

⚠注意　ノズルやホース、先端ゴムアタッチメント等の組立は、スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。不意に起動して思わぬケガの原因になります。

1 ノズルとダクトホースの取付け

・ブロワー本体の送風口の溝に、ノズル内側の2か所の凸部を合せて差し込み、ノズルを回して固定します。(図1)
・ノズルの先端をダクトホースに差し込み、ホースバンドで固定してください。

⚠注意

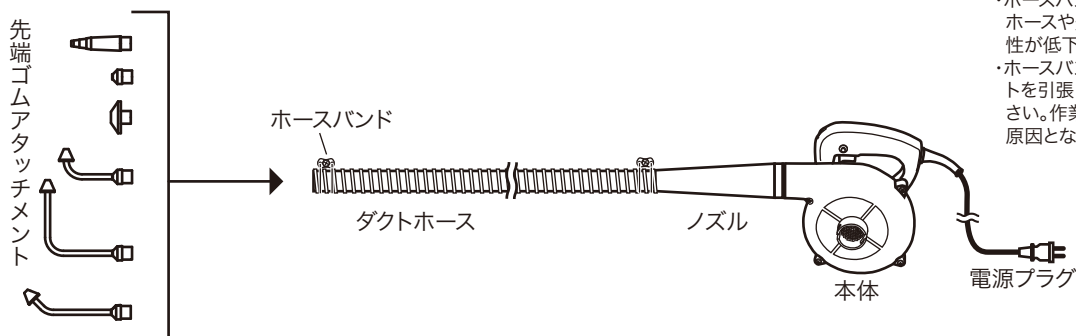
・ノズルをダクトホースに強く押し込まないでください。ダクトホースが引き裂かれる場合があります。
・ホースバンドを強く締めすぎないでください。ダクトホースやノズルが変形して、気密性が低下したり、破損の原因になります。
・ホースバンドで固定した後、ダクトホースを引張り、ホースが抜けないことを確認してください。作業中にホースが抜け、思わぬ事故やケガの原因となります。

2 先端ゴムアタッチメントの取付け

・通線作業する電線管に適した先端ゴムアタッチメントを選んでください。(2ページ参照)
・先端ゴムアタッチメントをダクトホースに差し込み、ホースバンドで固定てください。

先端ゴムアタッチメント

ホースバンド

ダクトホース　ノズル　本体　電源プラグ

⚠注意

・先端ゴムアタッチメントをダクトホースに強く押し込まないでください。ダクトホースが引き裂かれる場合があります。
・ホースバンドを強く締めすぎないでください。ダクトホースや先端ゴムアタッチメントが変形して、気密性が低下したり、破損の原因になります。
・ホースバンドで固定した後、先端ゴムアタッチメントを引張り、ホースが抜けないことを確認してください。作業中にホースが抜け、思わぬ事故やケガの原因となります。

3 接続部と動作の確認

・組み立てた接続部を引張り、接続部が固定されていることを確認してください。
・下記の「スイッチ操作」を参照して、ブロワー本体を連続運転させ、先端ゴムアタッチメントから空気が噴き出ていることを確認してください。また、接続部から空気が漏れていないことを確認してください。

ブロワーの操作方法

⚠注意　「安全上のご注意」(1ページ参照)に従ってブロワーを運転させてください。火災や爆発、ケガ、感電、故障の原因となります。

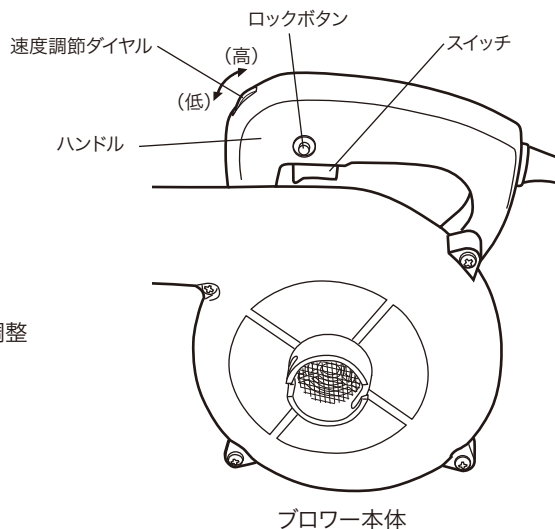
●スイッチ操作

・ハンドル部にあるスイッチを引くと送風運転します。スイッチを戻すと運転を停止します。
・連続運転をする場合は、スイッチを引いた状態でロックボタンを押してください。スイッチが引かれた状態で固定されます。停止する場合は、再びスイッチを引いて、ロックボタンを飛び出させ、ロック状態を解除してからスイッチを戻してください。

●風量調整

・ハンドル部にある速度調整ダイヤルを回すことで、モーターの回転数を変えて風量調整が出来ます。使用状況に合わせて調整してください。

ロックボタン　速度調節ダイヤル　(高)　スイッチ　(低)　ハンドル

ブロワー本体

使用方法

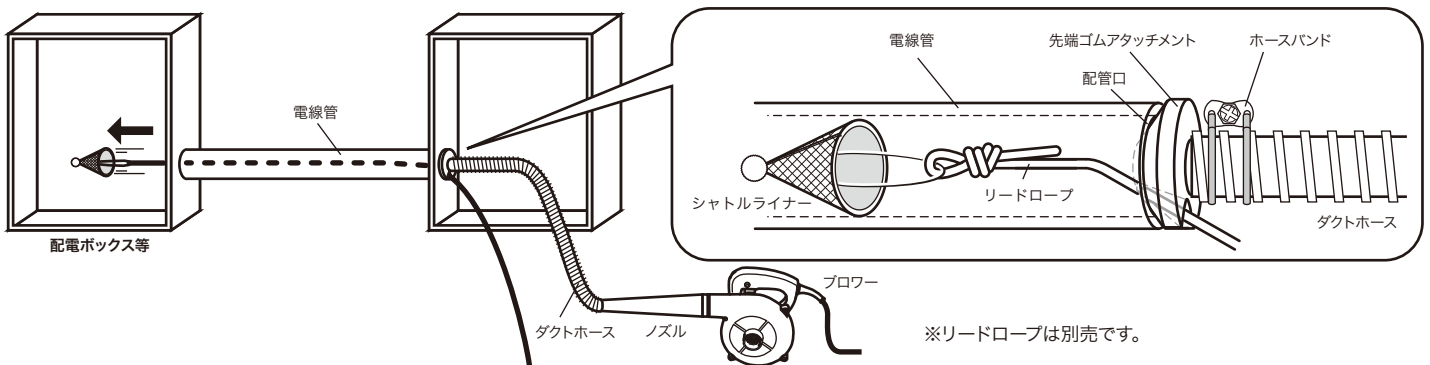
⚠注意 「安全上のご注意」(1ページ参照)に従ってブロワーを運転させてください。火災や爆発、ケガ、感電、故障の原因となります。

1 シャトルライナーとリードロープを結ぶ

・通線作業する電線管に適したシャトルライナー(又はボールライナー)と適したリードロープ(又はリードライン)を選んでください。(2ページ参照)
・シャトルライナー(又はボールライナー)とリードロープ(又はリードライン)を結んでください。

⚠注意 シャトルライナー(又はボールライナー)とリードロープ(又はリードライン)はしっかり結んでください。
入線作業中に解けてシャトルライナー(又はボールライナー)が管内に残留する恐れがあります。

2 リードロープの入線

・リードロープ(又はリードライン)を結んだシャトルライナー(又はボールライナー)を通線作業する電線管に挿入してください。
・先端ゴムアッタッチメントの溝にリードロープ(又はリードライン)を通して、先端ゴムアッタッチメントの先端を電線管の配管口にピッタリと当ててください。
・ブロワー本体のスイッチを引いてリードロープ(又はリードライン)を入線してください。リードロープがスムースに配管口に入っていくようにリードロープを繰り出しください。
・入線が完了しましたら、ただちににブロワーの運転を停止してください。

●リードラインを入線した場合
管から出たボールライナーをリードラインから切り取り、リードラインにリードロープ(又は入線用ロープ)を取付け、リードラインを引張りロープを管内に引き込んでください。

●入線が途中で止まった場合
直ちに作業を中止して、リードロープ(又はリードライン)をゆっくりと引き戻してください。強く引張るとシャトルライナー(又はボールライナー)が管内に残留する恐れがあります。

●シャトルライナー(又はボールライナー)が管内に残留した場合
呼線の先端に清掃用ブラシやスポンジを取付けて押し出してください。

●お手入れ
・乾いた布巾で拭いてください。
・各部の取付ねじが緩んでいないか定期的に点検し、緩んでいたらしっかりと締めなおしてください。
・機体や電源コードに亀裂や破損がないか、定期的に点検してください。亀裂や破損が見つかった場合は、使用しないでください。ヤケドや感電、火災などの原因になります。
・カーボンブラシは時々取外して点検してください。カーボンブラシが残り5mmまで摩耗していれば交換してください(下記の「カーボンブラシの点検・交換方法」参照)。短くなったまま使用すると、モーターの故障の原因となります。

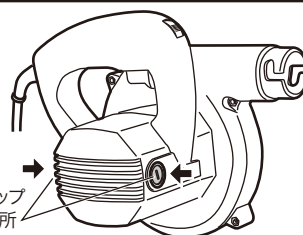
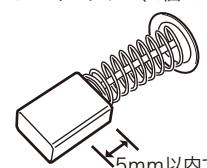
⚠警告 ・点検整備の際は、スイッチを切り、電源プラグがコンセントから抜けていることを確認してください。確認を怠りますと、感電や重大な事故の原因となります。

⚠注意 ・シンナーなどの溶剤は使用しないでください。溶剤による界面破壊の原因となります。

●保管
・スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて保管してください。
・直射日光や高温になる場所を避けてケースに収納して保管してください。
・ノズルや先端ゴムアタッチメントは、ホースから取り外して接触しない様に保管してください。素材の性質上、ホースが変色する恐れがあります。

⚠注意 ・保管の際は、スイッチを切り、電源プラグがコンセントから抜けていることを確認してください。確認を怠りますと、感電や重大な事故の原因となります。
・直射日光や高温、多湿の場所を避けてください。樹脂部品の劣化や破損、金属部品の錆の原因になります。
・シンナーなどの溶剤雰囲気中を避けてください。溶剤による界面破壊を誘発し破損の原因となります。

●カーボンブラシの点検・交換方法
・本体後方の左右にあるブラシキャップをマイナスドライバーで取外して、中のカーボンブラシを取り出してください。カーボンブラシを点検し、残り5mmまで摩耗していれば交換してください。
・カーボンブラシをもとの様にセットして、ブラシホルダー内でカーボンブラシがスムーズに動くことを確認してから、ブラシキャップを取付けてください。

※カーボンブラシは2個で一組です。交換は必ず2個同時に行ってください。

●保証期間:1年
(ブロワー本体のみ。ただし保証期間内でも次の場合は保証できません)
●火災・地震・水害・落雷、その他の天災地変
●使用上の誤り、異常電圧による故障
●分解・改造での破損
●お買上げ年月日の証明できる伝票等のない場合

●修理のご用命は販売店または当社にご用命ください。

〒579-8014 東大阪市中石切町3-13-16